西大寺の調査
－第335次

はじめに　調査地は、西大寺護国院内の北部に位置する。庫裡改築にともなう事前調査であり、東西7m、南北3m、面積21㎡の調査区を設定した。今回の調査区から東へ約7mの位置が1985年度に、北へ約７mの位置が1987年度に発掘調査されている（『西大寺防災施設工事・発掘調査報告書』西大寺 1990）。調査期間は2001年９月12日から21日である。

基本層序　現地表面の標高は73.9mであり、基本層序は、地表面から表土（黄灰色砂質土を含む、現地表下0.6m前後まで）、灰褐色砂質土、暗灰褐色粘質土（上記２層は1987年度調査の所見では中世以降の整地土層）、黄褐色砂質土（地山、標高73.05m以下）の順である。

検出遺構　検出した遺構は、柱穴、土坑、溝である。

柱穴SX881は、1985・1987年度調査で検出した奈良時代の掘立柱東西棟建物SB200（『1988平城概報』ではSB01）の北庇の西延長上10.3mに位置するため、これと一連の可能性がある。隣接する柱穴は調査区外に推定されるため、柱間は不明である。

柱穴SX882内には、長さ34cm、幅６cmの柱根と思われる木片が遺存していた。樹種はコウヤマキである。

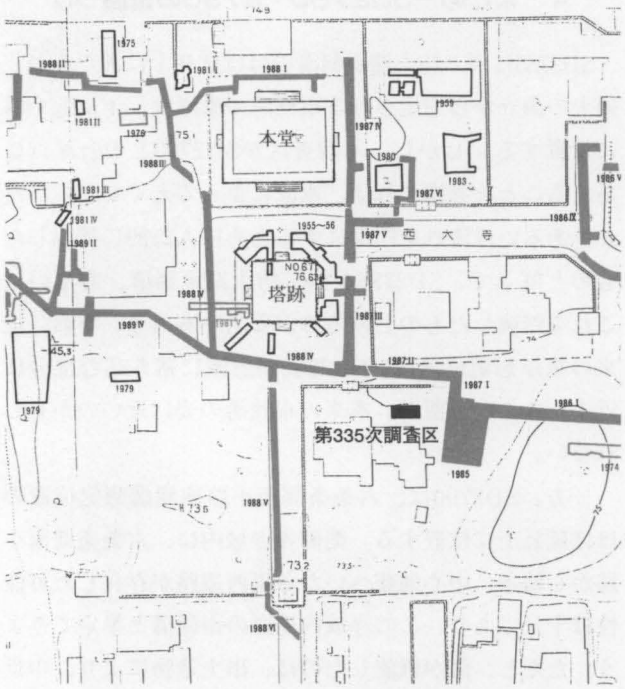

図151　第335次調査区位置図　1：2000

表22　第335次調査出土瓦磚類集計表

軒丸瓦			軒平瓦		
型式	種	点数	型式	種	点数
6314（西大寺44）	A	1	6732（西大寺248）	Q	1
西大寺82	A	1	西大寺303	A	2
中世巴		2	西大寺327		1
型式不明		1	中世		2
軒丸瓦計		5	軒平瓦計		6

	丸瓦	平瓦	磚	凝灰岩
重量	14.9kg	39.9kg	6.9kg	26.3kg
点数	119	385	4	8

型式番号は『西大寺防災施設工事・発掘調査報告書』による。

また、底には礎盤石と思われる拳大の石が置かれていた。1987年度調査で検出した奈良時代以前の掘立柱南北塀SA06の柱穴の南延長上に位置するが、SX882は整地土中（中世以降）で検出したため、時期が合わない。その他、1987年度調査で検出した奈良時代以前の掘立柱南北塀SA07の南延長上では、関連の想定される遺構は確認されなかった。

土坑SK883は中世以降のものであり、地山面を掘り込んでいる。検出したのは東南肩の部分であり、北側および西側は調査区外へ続く。これは1987年度調査で検出した中世の南北溝SD406（『年報1988』ではSD09）の延長部分の可能性がある。SD406は鎌倉～室町時代の区画溝の可能性が指摘されている。

その他、調査区中央付近の地山面で西から東へ20cm以上下がる段差を検出した。

出土遺物　出土した遺物は土器、瓦磚類、木製品である。瓦磚類は表22の通りである。奈良時代のものも含むがほとんどは中世以降のものである。また、前述したように柱穴から木片が出土した。その他、調査区南壁の黄灰色砂質土層内（標高73.1～73.3m）および南排水溝から、凝灰岩片が８点出土した。幅３cm以上の切り欠きをもつものもあり、羽目石など基壇外装石材の一部であった可能性がある。

（中島義晴）

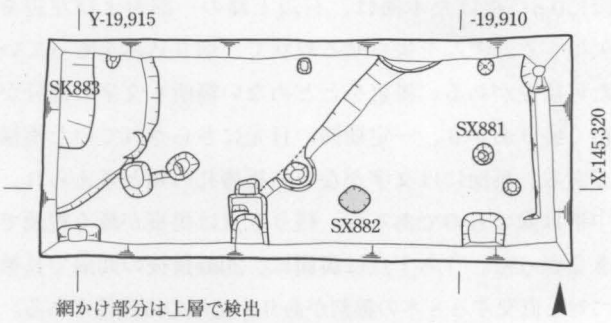

図152　第335次調査遺構平面図　1：100